

**Q13.熊本地震から2年経過して、今感じる事、思う事がございましたら
ご記載をお願いします。(自由記載)**

痛みを通して初めて人の心がわかるようになった。災害が他人ごとではなく寄りう心が与えられました。と共に災害に対しての耐久力がすくついたように思います。

自分の住んでいる地域に直接被害がなくいまだに実感がないのが正直な感想です。被災地支援に参加する中で見聞きしたことから地震の被害状況を知ることはできたとしてもその後の復興状況がどのようなものかわかっていない部分も多いです。

あのような思いは二度としたくないと思うが自然惨害は容赦ない、日常の備えと自身、職場の自覚のある様にして大きく違うと思う。

今の仕事で担当していない人をどこまで回るか。本震では数件しか回れなかった。

まだまだ気持ちの整理がついていません

これからさらに多くの災害が起こるだろうが周囲からの支援で助かった。支援する側、支援される側の立場が少しわかった。

2年前は夜間だったんで自宅にいたが、やはり日中の場合の訓練、家族などの連絡方法など常に確認が必要と思う

差が大きくなっており熊本市内でも復興が完了したと思っている人が多いと思われます。忘れないこと、現状を発信することが必要だと思えます。

地震を経験したからこそそのノウハウを持っているのでマニュアル作成や研修棟を経験しないところや人たちへ行なったらよい。

できればもう少し早い対応ができるような体制が必要と思います。

仮設住宅を利用せざるを得ない状況にある方、今後の見通しがまだ立たない方の状況を伺うと胸が痛みます。地域の防災力を高める為、できることから取り組んでいきたいと思えます。

まだ余震が続いているような気もするが災害復興が道路など交通アクセスなど完全に元どおりになっていない

復興が進まずいまだに仮設で生活されている方がたくさんおられると聞き、一日も早く普通の生活ができるよう復興が進むことを祈る気持ちです。

人々のつながりはとても重要だと思う。

地震の時は担当している方の体調確認、変化があった時の対応、各種手続きなど無我夢中であった感じがします、ケアマネ協会の活動は具体的でわかりやすく参加しやすかったと思えます。社会福祉士会の活動にも参加できるよう情報を確認したいと思えます。

インフラ整備が終わっても震災前より活気が減退しているように感じます。人が減っているような、夜は早く帰宅する人が増えたのしかもしれません。自助が大事なことがわかったですね。情報も重要！また多職種との連携やネットワークも構築しておくことも大事度と思った、

まだ2年、もう2年立場が違うと思ひも異なると思ひます。前を向いてみんなが前に住んでいけるだけ支援していきたいです、

毎年日本のどこかで天災が発生し、他人ごとでは考えられない。災害を経験したからこそ感じることであり被災された方の力になりたいと思ひているが現在職場においても人材不足であり、現実的に難しいところである。社会福祉士会での募金があれば賛同したい。

発災時より現在がソーシャルワークの必要性を感じます。ケースワーク、コミュニティワークにおいて社会福祉士の活躍が期待できると思ひます。

熊本地震以降、大きな自然災害が日本各地で起きています、職能団体として他団体、行政と連携を密にして支援を円滑にできるようにしていく必要があると感じます。

県内でも比較被害が少なかった地域では少なからず地震に対する温度差があると思ひます。やはり風化させないことが大切だと感じます。

八代地域はあまり被災しておらず直後3か月ぐらひは不安であり対応に苦慮していたがその後は日常生活に戻っている。時間が経過するごとに風化しているように感じる。被害が大きかった地域の方は現在でもたくさんの困難や不安を感じていらっしゃるのではないかと思ひます。

熊本が体験したことを他県などに発信したい。仮設住宅をバリアフリー住宅だけにするなど。コストの面など考慮して簡易にできるものは取り入れたり、どの仮設住宅にでも障害者や健常者の区分なく一緒に入れるようなものを設計してほしい。

住んでいる地域や職場付近の災害復旧が進み震災前の状況に戻っている。しかし、益城や阿蘇など地域によって復旧の差が大きく異なっているように感じる。震災で職場が被災し、地域住民を受け入れることができず、もっと災害対応のマニュアルの整備や災害時の福祉施設の役割について職員に周知すべきだったと思ひます。

益城や阿蘇地域の方々の頑張りには頭が下がります。支援することも大事ですが、地域の力を強くすることも必要なのかなと思ひます。今後、どのようになっていくのか？全国、いろんな所で災害が起き先日西日本の大雨ででは地震よりも悲惨な状況に見えました。復興していても次々に起こる災害に対し希望を持ち続けられるなにかが必要かなと感じます。

台風等と違い地震は急に来るもので日頃の対策が必要だと感じた。

まず自分の身は自分で守る。・できることからボランティアして無理しないこと・要介護4の母と叔母と施設サービスで助けてもらって感謝。

復興に関する制度も十分に活用できた方と取り残された方がいると感じています。

仕事を通じて仮設の方と関わっています。一番のお悩みは住まいの確保と新しい住まいでのコミュニティづくりだと思います。もう少し経済的支援の方策があれば助かる人も多いと思います。

自分は通常生活が送れているので復興がどの程度すすんでいるのか正直把握できていない。まだまだ被災された方からすれば困っていることが多いかも知れないが、今把握できる現状にない。協力員として登録するハードルは高いが単発で関わることはもしかしたらできるかもしれない。

職場も震災に遭い大変でした。また、避難所としても受け入れをしていましたが、初期対応の重要性をとて強く感じました。現在、自分自身は以前と同じ生活をしていますが、また震災があるのではと考えるととても不安に感じますが、経験を少しでも活かせるように訓練は定期的に行っていきたいと思っています。

実際被災者の立場にあり、支援者の立場として何かをしなければと考える余裕は全くなかったと感じていました。 (感じてもしようもなかったというほうが強い) できれば、ボランティアとしてできることをしなければという責任を感じると同時に自分の生活・家族の生活、日々の生活に余裕がないと難しいことも感じています。

地震後、数か月は地域の皆さまとの助け合いで日々忙しく生活していました。少し精神的に落ち着いた頃、社会福祉士会の災害支援活動を知り勇気が沸きました。同じ会員の方が活動してくださっていることで、自分も社会福祉士としての自覚・誇りを持つことができました。社会福祉士になって、そして社会福祉士会員になってよかったと思います。

当たり前かもしれないが被災した程度によって温度差がある。行政が担う役割は大きく自治体同士でも差がある。福祉に力を入れている自治体は強い(災害時において)NPO・ボランティアはじめ様々な職能団体が動いておりいいことだとも思う。葛藤やジレンマを抱えている支援員も見られた。多職種連携の難しさを痛感した。もちろん、被災した人たちの復興を願っている。それと同時に毎年自然災害が起こっていることを考えれば、まだまだ様々な備えが必要だと思う。経験年数が少ない私から言わせてもらえれば、いかに迅速な組織運営ができるかと、日々の啓発活動だと思う。行政のことしか知らないことしか多かった。情報だけでは埋められない。社会的に認知が必要。

社協に入ったからこそ災害時の動き、支援の必要性が理解できたが、以前の高齢者施設にいたときは無関心に近かった。同様の方が多くはないかと思うので啓発周知は大事だと思う。

阪神淡路、原発災害をいかしていなかった。

避難所での支援は多かったが、小さい子やペットがいる家庭など車や物置等で生活している方への支援はなかなか入らず大変だったと思った。地区内での取り組みがあり近隣の結びつきを重要だとつくづく感じるが多かった。地区内の結びつき、近隣の方々との付き合いが今後の課題だと思う(公私ともに)

今後の災害に向けて福祉士としてどう動くことができるかを考えたとき、県士会として体制整備されていると活動しやすいと思います。現在、施設管理者をしています。施設としても地域にどのように貢献できるかを考えていきたいと思っています。

みなし仮設の支援や南阿蘇、益城、西原の方々の支援はコミュニティ再構築という点ではまだまだだと思っています。社会福祉士として側面的支援をできればと思うます。

あの時は何もできず自分のことで精一杯だった。手伝える状況であれば手伝いたい。

災害の振り返りを年に一回はしていく必要がある。

被災者が元の生活に戻れる、または新たな生活を築くことの困難さを感じる

現時点ではなかなか協力できていないが、今後自分に何ができるか考えていきたい。

災害はいつ来るかわからず被害を最小限に抑えるため、常に危機管理意識を心がけて生活しています。

熊本地震から災害について学べたのか、熊本地震が風化しないか心配

支援活動を行っている方が生き生きと話をするのを聞いていました。様々な事情で参加できず参加できないことでも心に傷を受ける人は私以外にもいると思います。直接の支援活動はもちろん大切ですが、被災地の福祉士へのスーパーバイズ等々、支援の形態が多様化すると、もっとたくさんの社会福祉士が支援活動に参加できると思う。

災害の映像を見ると日々混乱していた自分を思い出し泣きそうになる。今も業務の中で復興支援に関わるが、未だに罹災証明発行から関わる方々にお会いしたりするたびにまだまだ先が長いなおもいます。

社会福祉士として、自分自身に何ができるのか、いまだによくわかりません。力不足を感じている

熊本市は特に被害少なかったため、他県の水害、地震の被災とは復興の速度は速いと感じる

被災直後の混乱期から、実際に復興するまでそれぞれのステージで必要とされることは違っていると思います。目先の事だけでなく少し先を見据えた支援ができれば、その分復興もスムーズに進んでいくのではないかと思います。自治体に勤めていますが、災害直後はどうしてもその場のニーズに対応するだけで手が足りません。そういった所と上手に手助けできることがあれば、お互いとてもプラスになると思います。

発災時に社会福祉士ができることを皆で再考したい。災害を想定した研修の実施

災害はいつどこで起きてもおかしくない現状の中で、やはり身近な地域で日頃から災害訓練等の積極的参加、自治会(自治体)との協力体制を築いておくことが大事と考えます。

障害を持った息子もおり、本当に自信も被災者なのに、福祉避難所対応に追われ、地域の方からも息子の受け入れが難しい場面もあり、障害があってもなじみの地域でとは言うものの、現実はまだ厳しいんだと痛感したこともあった。

早く復興することを願っています

自分たちは、地震の被害がなかったので、だんだんとその時の記憶が薄れてきている

自宅に親族の独居高齢者を二人受け入れて、両親等と生活を共にすることが精いっぱい動きでした。それぞれに所属している職場での活動が優先となると、Q10のように思っても、自身が協力員に登録することは、難しいと感じ、今後どのような形で協力できるのかを想像できずにいます。

地震時は県外におり、家族や友人が怖い思いをしているときに、自分もその場に入れなかったことや時に支援もできなかった自分の非力さにもどかしい気持ちになりました。今は熊本に戻っており、あの時できなかったことをやれたらいいと思っています。社会福祉士会員としてできることがあるなら是非協力したいです。

私もまだみなし仮設に入っている。2年があつという間で引っ越しを考えているが、だんだん面倒にも感じている。区役所の方から半年に一度、健康状態をヒアリングに来られるが、高齢者世帯や何らかの問題を抱えている世帯はどう暮らして、これからのことを考えておられるのか把握だけでも解決にはつながらない。このような人々をしっかりと支援してこそ、福祉職としてあるべき姿ではないかと感じる。

次第に記憶が薄れてきている。震災直後のような、緊張感も薄れてきている。

支援を「今すぐ必要としている人」「あれば助かる人」「もともと困っている人」と被災者のニーズも様々である。私たちの役割は何か、活動することが誰の何をどうするためのものなのか？明確にしておかなければ、被災された方々の自力していこうとする力すら、つながりすら奪ってしまう可能性がある。非常時ではなく、日頃から地域住民同士がつながりはじかれる人を出さないような社会づくりに日々参画していくことの延長線上に非常時の活動もあるのではないかなと思う。

一見平穏に過ごしておりますが、災害の後遺症に苦しんでおられる方々いるはずで..

震災で住居を失われた皆様が、新居に戻るまでには色々な課題があり、再建は本当に時間のかかるし、みなし仮設がすべて撤去されるのはいつになるのかなと思います。

地震発生当時は子育て中でもあり、仕事をしていなかったため、当時の大変な状況が今でもよくわかりません。(住んでいる地域もそれほど大きな被害がなかった)ただ、今後もし、自分が何らかの形で関わらせていただく機会があるのだとしたら(子育てがもう少し落ち着いたら)自分にできることは何かをしっかりと考えて活動していきたいと思います。

県士会だけで考えるのではなく、行政や他団体(老施協等)と連携しながら、マニュアル等の作成をしていかないと、様々な団体がな支援をしているように思います。

今はありません

各団体への協力が出来ていなかった。自分の職場で精一杯だったため、社会福祉士としてどうかと思いました。

まだまだ支援が必要な方はたくさんいると感じています。

災害に会ってから気づくことがたくさんありました。誰にでもおこることなのだという事。おこった時にどのように対処するかがとても重要なのだと感じています。ひとりでは何もできないかもしれませんが、職の団体として出来る事をこれからも考えていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

私自身生活は変わっておりませんが、多くの方が住居等で生活が一変しているのかなと思います。どんなであれ、震災のことを忘れず、出来る事をしていかなければならないと感じました。

災害時支援委員会のメンバーはじめ、ボランティア等直接支援されている会員の方が、一生懸命に災害支援に取り込まれていることに感謝します。自分の家庭の事業で参加できなく申し訳なく思っています。

熊本地震を忘却の彼方にかないように定期的な情報発信

地域福祉の重要性を熊本地震で改めて学んだ。細かい情報をやり取りし、食べ物やモノ(必要な物)の差し入れに助かり心も支えられた。

前回のアンケートでも書かせていただいたように、ソーシャルワーク団体の協力協定はすみやかに行き、何を連携していくかを周知していくべきではないかなと思う。

いつどこで災害がおこるか分からない中、熊本地震をどういかにして今後にそなえるか。まずは自分自身からそなえていく必要がある。

何かをしたいと思っていてもどう動いていいのかわからないのか、必要とされているのかなどがわかりませんでした。事前にネットワークがとれていると急な対応なども可能になるのではと思いました。

私が住んでいる町はそこまで大きな被害が無かったが、余震が多かったこともあり暫くは混乱した状態が続いた。半年ほど経ってから「ああすればよかった」「こうすればよかった」と話し合う事、思う事がたくさんあった。役場、社協、介護サービス事業所や病院の連携もうまくできていなかったことがわが町の災害時の対応の課題となるのではないかと感じている。県士会会員として実際に、何か活動しているわけではなく、自分の都合のつくときに興味のある研修に参加したり、HPのチェックを週に一回程度しているくらいです。前回のアンケート結果もHPで拝見しました。その結果から他の会員さんの思いや意見を知る事ができるので、他の会員さんと交流している気持ちになれます。アンケートの作業や集計は大変だと思いますが、あまり買いに参加していない私にとっては意見や想いが伝えられる機会でもあります。ありがとうございます。

またあたり前に生活できるようになったことがありがたい。

「天災は忘れたころにやって来る」を肝に銘じて、常に備えておくことが大切だと思っています。また、予想外のことも起こりうることも前提に、出来る範囲で予想外を予想内に留めるような想定と準備が必要ではないかと思っています。

これからも全身全霊をかけて支援を続けていく。

災害が発生した時のことを考え訓練を行っておくこと。支援に来ていただいた方へお願いすること、自分たちが出来る事を想定しておくこと。日頃から地域の方や各支援団体の方と関係を築き一緒に訓練を行う事が重要だと感じました。

復興が順調に進んでいる部分と全く進んでいない部分と二極化しているように感じます。南海トラフ地震への備えが必要だと思います。

勤務先の業務として行う事と会員として行う災害時支援との違い、線引きが難しいと感じています。被災後の生活の立て直しについては、高齢者障がい者については制度の手続きなど十分な支援や情報が無いと困難である。

地震後、それぞれがいつも日常を取り戻すためにみんなが協力し合う事ができた。それを今後も持続させることみんなで復興していこうという気持ちがとても重要だと思います。

時間の経過とともに震災が過去の出来事になりつつあるが、日頃からの防災意識、災害が起きるかもしれないという危機意識はもちろん、万が一のときは地域が一丸となって災害を乗り越えることが出来る絆作りが必要だと切に感じます。また県士会の活動がその一役を担える活動であればと思います。

失われた物は大きく復興は進んでいると感じている。失われたものが、元に戻ることはない。経済的精神的な支援を今以上にすべきだと思う

あつという間の2年間だったが、まだ今も支援が必要とする人もついつい忘れがちになってしまう。障害を持った人や高齢者、子どもの方など災害にあったときにいち早く支援できる体制づくりは必要かと思っています。

災害発生から避難生活、そしてまちの復興期に至るまでの支援に関して、自分の職場での、社福としての仕事をひとつひとつ取組む毎日であった。生活再建支援にあたる福祉人材の必要性を感じた。また、地域の福祉力を回復を推進する専門家等福祉人材の確保は早急の課題であると感じた。

再建された家では、新しい地域のように感じて寂しく思うこの頃です。新築の家は物音が外にひびきにくい構造になっていて散歩していても、人を感じる事ができません。再建しても2年間で別居した人、離婚した人等様々に地震が起きなかったら、今まで通りに生活が継続できたのか、と思います。前向きな人もいますが少なからず後向きな人もいます。

地震後、近所のほとんどの世帯は最寄の小学校に避難されましたが、我が家は介護の必要な高齢者がいたので、不安を感じながら自宅で過ごしました。早期にデイサービスを再開していただいたことを、私の業務も通常どおりだった事で、災害支援に全く関わっていない自身に対して申し訳なく思っています。そして、どの様な応援の仕方があったかと真剣に考えていませんでした。私のように余力のある者が介入していない事がもったいないとさえ思っています。そこで情報の発信は重要だと考えますが、では誰がどのように発信するのか新なる課題が出てきそうです。

皆で力を合わせて更なる災害に対する意識を高めることが大切です。いつどこで災害は起きるかわかりません。人命第一、予防システムをしっかり考えたいです。

未だ課題が多い。他県に対してどう支援できるのか。実際に体験した自分達だからこそ忘れないようにしたい。

熊本自身が発生したときに、仕事に従事する中、仕事をする、家の事をする中で、支援まで行くことができなかったが、何か被災者の方々の役に立ちたいという思いはありました。

今まで思ってもみない地震が起き、喉元すぎれば、とならないように。災害はいつ起きてもおかしくないで、個々がそれに備える体制が必要であると考え

もう2年かという感じです。

地震に限らず、今は本当にいつどこで災害が起きるか分からない時代です。まだ地震の記憶が新しいうちに備えをしておくことは大切と思いますが、ついに日常に流されています。こういう形で県士会がまとめてくださることに労に感謝します。

忘却も復興の一形態と思われるが、ひとりひとり受けた災害時の内容程度により忘却できずに痛みを抱えていると思われる。身寄りのないひとり暮らしの生活支援への総合的な支援の必要性が今後さらに増すものと思われます。

2年が経ちましたが、未だにあの時のことを思い出すと胸が痛みます。当時の日記や業務日報は読見返すのがためらわれます。家屋が倒壊したところに記念写真を撮りにくる愚か者がいたり、思い出すと今でも腹が立ちます。しかし、そのような場所もいつの間にか更地になり、新しい家が建ち、徐々に復興していく様子を励まされるような気持ちもしています。

熊本地震が起こった後も、日本全土で次々に災害が起こっている。どこで何があってもおかしくない状況だと思う。自分自身の災害に対する準備を行うとともに、支援する場面、全体の動きがみえて、自分の役割がきちんと果たせるよう、マニュアルやガイドラインを常に意識してみたいと思っている。

地震時、市役所勤務しておりましたが、職員体制が地域に根差しておらず、反省することも多かったと思います。また県と市の歩調もあっておらず、市の対応にまわりの市などが困惑することも多かったと聞きました。社会福祉士はボランティアの受け入れなど実践的にも動き体制づくりが早かったのではと思います。

いつどこで起きるかわからない災害の怖さを改めて感じました。

天草ではほとんど被害はありませんでしたが、チャリティーコンサートを催して、少しでも応援できたらと思う。

地震のことを忘れていいるなど感じることもある反面。他地域での災害をみると「ひとごとではないな」と感じます。

被災地に寄り添った支援をしてほしい(まずは被災地がしてほしいことは何でもする)・被災地に迷惑をかけないよう現地コーディネートをしてほしい。震災後すぐも大事だが再建に悩んでいる被災者は今が多い(今活躍できるのでは)。被災会員の安否や支援を先に充実してほしい(何のための会員か)